

2022 年 11 月 28 日
日本船主協会 企画部広報室

海事講座、体験航海や海事施設の見学会を北九州市にて実施 ～海運の重要性を学校教育の場で～

当協会では、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船および海事施設等の見学会や出前授業など各種活動に取り組んでおります。

今般、当協会では、11 月 10 日（木）に鶴丸海運、および九州海事広報協会や大島商船高等専門学校などと協力し、北九州市石峯中学校 1 年生約 60 名を対象に、海事講座や体験航海をはじめとした海事産業見学会を実施いたしましたので、その模様をお知らせいたします。



まず、同中学校にて大島商船高等専門学校の担当者より、同校の紹介とともに、航海学や海里などの海事関連知識および海運の歴史について説明がありました。

その後、生徒は鶴丸海運本社へ移動し、鶴丸海運にて海事講座を聴くグループと、本社近くにある若戸渡船での体験航海グループに分かれ、交代制で夫々に参加しました。鶴丸海運本社では、同社マスコットキャラクター「ツルオくん」のお出迎えがあり、生徒は非常に喜んでいました。



海事講座では、はじめに当協会より、海運の役割、重要性やコンテナ輸送などについて、クイズやコンテナ型の小物入れも活用しながら説明しました。生徒からは「海運の大切さがわかった」などと言った声が聞かれました。

次に、鶴丸海運より、同社の沿革、運んでいる貨物（鉄鋼製品など）や船員の仕事などについて紹介し、生徒は熱心に聴いておりました。海事講座後は社内にある展示物を見学、生徒は展示された資料やモデルシップを興味深そうに見ておりました。



当協会説明の様子



鶴丸海運ご説明の様子



鶴丸海運社内展示物見学の様子

一方、若戸渡船を活用した体験航海では、洞海湾内を周遊しました。生徒は付近を航行する内航船や海沿いに立地する物流施設などを見ながら、船や地元産業などについて理解を深めました。



最後に、生徒は北九州港ひびきコンテナターミナルへ移動し、担当者より同コンテナターミナルの概要や取り扱っている貨物などに関する説明を受けた後、社屋屋上よりコンテナターミナルを見学しました。生徒は寄港していたコンテナ船やガントリークレーンの大きさに驚いておりました。



当協会は今後とも、会員会社や海事関連団体と幅広く連携しながら、海事産業をより教育に取り上げてもらえるよう広報活動に注力してまいります。

以上